

BOOKS

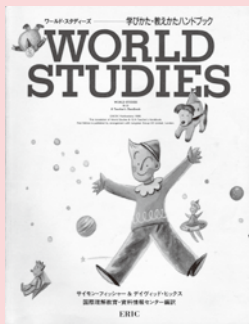
参加者が勧める参考図書



ワールド・スタディーズ 学びかた・教えかたハンドブック

サイモン・フィッシャー、ディビット・ヒックス著
国際理解教育センター発行(1991年) 2,625円

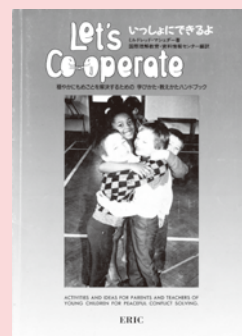
国際理解教育のバイブル的な本である。国際理解教育を実施する上での考え方や、ねらい、目標に加え、たくさんの具体的な授業案が書かれている。国際理解教育にとどまらず、普段の授業を見直すきっかけや進め方のヒントとなりうる必読の教育書。



いっしょにできるよ 穏やかにめめごとを 解決するための学び方・教え方 ハンドブック

ミルドレッド・マシュダ著
国際理解教育センター発行(1994年) 1,890円

勝つことに目が向けられがちな現代の競争社会の中で、『…勝っても負けてもどうってことないもの。勝とうなんて思わなくてもみんなが認めて応援してくれるよ』という言葉から始まる本書は、よりよい人間関係とは何かについて改めて考えさせてくれる。お互いが認め合い、よい関係を作り上げる雰囲気づくりのためのたくさんのアイデアは、ゲーム的要素があり、家庭や学校で簡単に楽しく実践できる。



みんなでつなごう！教室と世界

(財)福島県国際交流協会発行(2003年)

県内のNGOや教員の方々13名が1年かけて作成した国際理解教育の冊子。「ゴミラのゆくえ」「世界の家族」「心に緑の種を蒔こう」など9つの学習プランを紹介している。後半では、外部講師、新聞、インターネットなどの活用のポイントも掲載されている。(財)福島県国際交流協会HPからダウンロード可。



わーい！外国人が 教室にやってきた！ 学校と地域がつくる国際理解教育

武蔵野市国際交流協会発行(2002年)



わーい！NGOが 教室にやってきた！ 学校と地域がつくる国際理解教育

武蔵野市国際交流協会発行(2003年)



どちらも武蔵野市国際交流協会で開催した「教員ワークショップ」の報告書。1年目が外国出身者をテーマに、2年目はNGOをテーマに学習プログラムを作成し、その実践報告も載せている。冊子のところどころに散りばめられた作成メンバーの「コメント」には、思わずフツと吹き出してしまう。



教室から世界へ 開発教育・国際理解教育虎の巻

国際協力機構中部国際センター発行(2006年) 2,000円

「クラス目標づくり」「コミュニケーション」「人権」「異文化理解」「貧困」「国際協力」「フェアトレード」「難民」「戦争と平和」をテーマにしたモデルプログラムが紹介されている。どれも様々な参加型の手法が取り入れられ、教材やワークシートがそのままコピーして使えるようになっている。

